

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【教育目標】 校訓「知性・敬愛・活力」のもと、豊かな教養と幅広い人間性（他者を慈しむ心）の基盤の上に、学習とスポーツ・文化活動の両立（文武両道）をめざして、何事にも前向きに取り組む人物を育成する。 【育成をめざす資質・能力】 1. 学校行事や部活動を通して、学年の枠を超えて自主・自律的態度を育成するとともに、協働、集中、規律、責任などを重んじる態度とコミュニケーション能力を培う。 2. 基礎学力を定着させるとともに、生徒の学ぶ意欲を高める。さらに、思考力・判断力・表現力を培い、主体的な学習能力の向上を図る。 3. 礼儀正しく、思いやりと品位のある態度を養い、挨拶の励行、マナーの遵守、校舎内の清潔の保持に自ら進んで取り組む態度を育てる。 4. 自他を尊重する心を育み、人権を尊重する態度を養う。

2 中期的目標

【桜宮高等学校改革プラン（骨子）】 ・信頼と誇りを胸に、生徒・保護者、市民とともに先進的なスポーツモデル校をめざし、学校づくりをめざす。 ・豊かな教養と幅広い人間性（他者を慈しむ心）を最重視し、その基盤の上にスポーツマインドを備えた人材を育成する。 1 確かな学力の育成と進路実現 （1）基礎学力の充実を図るとともに応用力と創造性を養い、自ら進んで問題解決・自己実現していく態度を育成する。 ア 家庭での学習習慣の定着を図り、早期から進路実現に向けた自主学習習慣を確立させる。 ※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「21_授業以外で一定時間、毎日勉強している」の肯定的回答率（全学年）を令和9年度には50%以上にする。（R4：33.8%、R5：38.3%、R6：42.6%） イ 進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、漢字検定や英語検定など外部検定の受験意識の向上を図る。 ※ 外部検定の令和9年度受検者数を漢字検定50名、英語検定400名をめざす。 漢字検定受検者数（R4：60名、R5：31名、R6：24名） 英語検定受検者数（R4：130名、R5：358名、R6：287名） ウ 生徒の健全な教養の育成のために、書籍に親しむ態度の養成に取り組む。 ※ 令和9年度には、入館者数1200名、貸出冊数500冊をめざす。 （R4：入館者数551名、貸出冊数222冊、R5：入館者数1063名、貸出冊数407冊、R6：入館者数1022名、貸出冊数418冊） （2）生徒が、自発的に自らの能力・適性・興味・関心を生かした進路選択を行い、進路実現に向けた積極的な取組みを主体的に行える力を育成する。 ア 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、実力養成に努めるとともに、進路意識の向上に努め、生徒の自発的な情報収集能力・活用力の向上を図る。 ※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率を令和9年度には85%以上にする。（R4：85.4%、R5：80.2%、R6：83.6%） イ 人間スポーツ科学科の生徒を中心に、将来アスリートを多方面からサポートする人材の育成に向け、ジュニアトレーナー制度の充実を図るとともに、外部団体の公認資格の受験推進を図る。 ※ 資格試験の正解率70%以上を基準とし、令和9年度の合格者80名以上を目標とする。合格者（R4：64名、R5：55名、R6：78名） ウ ジュニアトレーナー合格者のさらなるステップアップとして、スチューデントトレーナー等の正式資格の受験推進を図る。 ※ 正式資格の受験者数30名以上を維持する。受験者数（R4：15名、R5：7名、R6：38名） （3）グローバル社会に対応できる人材の育成 ア キャンプライアカレッジとの交流を通して、国際社会に生きる市民としての意識の涵養に努める。 ※ 国際交流事業に参加した生徒に対するアンケート調査を実施し、満足度について80%以上を維持する。（R4、R5：未実施、R6：100%） 2 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 （1）人権を尊重する教育の推進 ア 命の大切さを理解させるとともにお互いを認め合う心を育て、人権意識を高める。また、これらの指導を通して生徒理解への環境づくりに努める。 ※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率90%以上を維持する。（R4：92.1%、R5：86.4%、R6：97.4%） （2）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援 ア 生徒一人ひとりの希望進路の実現を図る。 ※ 「自立支援コースについてのアンケート」の項目4「あなた（お子様）にとって本校の自己実現（進路、学習等）に向けての支援は十分できていると思いますか」の「①充分であると思う」の回答を令和9年度には80%以上にする。（R4：66.7%、R5：77.8%、R6：66.7%） 3 豊かでたくましい人間性の育み （1）他者を思いやる豊かな人間性を備え、自律した生徒を育てるとともに、社会への適応力を育成する。 ア 誰に対してもさわやかに挨拶ができる生徒を育て、生徒・保護者や教職員が笑顔で挨拶のできる学校をめざすとともに、コミュニケーション能力の向上を図り、生徒自らが明るく気持ちのいい学校生活を送ることができる学校づくりをめざす。 ※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「4_学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」の肯定的回答率85%以上を維持する。（R4：86.5%、R5：80.5%、R6：85.8%） （2）自主・自律の精神を尊重し、友好的人間関係を構築することができる環境づくりをすすめる。 ア 自主・自律的態度を育成するとともに、自他を尊重する心を育む。 ※ 「桜高祭の取組みに対しての生徒アンケート」を実施し、肯定的回答率90%以上を維持する。（R4：82.4%、R5：88.9%、R6：93.3%） イ 部活動において、生徒が主体的に活動に取り組めるような環境づくりを図るとともに、部活動間の意思疎通を促し、学校全体の活性化を図る。 ※ 「生徒向け部活動アンケート（2学期末：1・2年生）」を実施し、生徒の満足度について95%以上を維持する。（R4：97.6%、R5：88.9%、R6：97.8%）

4 健やかな心身の育み

- (1) 自らの健康や体力に関心を持ち主体的に健康・安全・美化を管理し改善していく資質や能力を育てる。
- ア 日常の教育相談活動の充実を図り、生徒理解を深め、課題への有効な支援を行う。
- ※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「20_学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができている」の肯定的回答率について 85%以上を維持する。(R4 : 85.5%、R5 : 78.1%、R6 : 85.6%)

5 教員の資質向上

- (1) 指導法の改善と授業力向上を図る。
- ア 研究授業、授業見学月間等の実施により、教員間の意見交換を活発に行うことで、授業力の向上をめざす。
- ※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「5_授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率について 85%以上を維持する。(R4 : 82.1%、R5 : 72.3%、R6 : 86.3%)

6 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

- (1) 地域に開かれた学校づくり
- ア 「SAKURA フェスティバル」の参加者数を毎年 600 名以上の参加者数を目標とする。(R4 : 706 名、R5 : 610 名、R6 : 900 名)
- 生徒のボランティア参加イベントとボランティア参加生徒数 120 名以上維持を目標とする。(R4 : 未実施、R5 : 105 名、R6 : 150 名)
- (2) 働き方改革
- ア 教職員の時間外勤務の縮減に向けた取組みを促進し、勤務時間等の管理、健康管理を徹底することにより、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。
- ※ 時間外勤務時間月 80 時間を超える教職員数を前年度水準以下とする。(R6 : 25 名)
- 「大阪府における部活動等の在り方に関する方針」を遵守し、適切な休養日等を設定し、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。

7 安全で安心な学びの場づくり

- (1) 生徒の生命・身体を守る取組み
- ア 自転車通学のマナー向上と交通事故防止を目標に、交通安全に対する意識を高める。
- ※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「22_交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」の肯定的回答率(全学年)を令和9年度には 85%以上(全学年)にする。(R4 : 78.3%、R5 : 78.2%、R6 : 82.9%)
- (2) 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底
- ア 清潔で安全な環境づくりに取組むために、委員会活動を通じて、校内美化に努める。
- ※ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「24_校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できている」の肯定的回答率(全学年)を令和9年度には 80%以上にする。(R4 : 78.9%、R5 : 70.5%、R6 : 74.6%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成 と 進 路 実 現	(1) 基礎学力の充実を図るとともに応用力と創造性を養い、自ら進んで問題解決・自己実現していく態度を育成する。			
	ア 家庭での学習習慣の定着を図り、早期から進路実現に向けた自主学習習慣を確立させる。	(1) ア 各教科において、予復習に活用できる教材の提供や授業時の小テストを実施することで、家庭学習を定着させる。また、ICTを活用した授業研究を推進し、生徒の興味関心を引き上げ、自主的に学習に取り組む意識を向上させる。	(1) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「21_授業以外で一定時間、毎日勉強している」の肯定的な回答について前年度水準以上。[42.8]	
	イ 進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、漢字検定や英語検定など外部検定の受検意識の向上を図る。	イ 科目選択・資格試験に向けた情報の提供や生徒一人一人の状況に応じた指導を行う。そのために、科目選択や資格試験に向けた説明会・補習を実施し、資格取得への意欲を高める。	イ 外部検定の受検者数を前年度水準以上。 外部検定の受検者数 漢字検定 [24 名] 英語検定 [287 名]	
	ウ 生徒の健全な教養の育成のために、書籍に親しむ態度の養成に取り組む。	ウ 芸術、文化に対する関心、意欲を育てるために、新刊図書、話題の図書、推奨図書などの情報を発信する。さらに、生徒のキャリア形成に向けたサポートにつながるコーナーを図書室内に設置する。	ウ 入館者数、貸出冊数において前年度水準以上。 [入館者数 1022 名]、 [貸出冊数 418 冊]	
	(2) 生徒が、自発的に自らの能力・適性・興味・関心を生かした進路選択を行い、進路実現に向けた積極的な取組みを主体的に行える力を育成する。			
	ア 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、実力養成に努めるとともに、進路意識の向上に努め、生徒の自発的な情報収集能力・活用力の向上を図る。	(2) ア 実力テストや個別の模擬試験、補習等を実施することにより、自らの学力・弱点箇所の把握・克服に役立てる。また、外部講師を招聘し、学年ごとの生徒向けガイダンスを行い、進路実現に役立つ情報を提供する。	(2) ア 「(生徒用)学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率前年度水準以上。[83.6%]	
	イ 人間スポーツ科学科の生徒を中心に、将来アスリートを多方面からサポートする人材の育成に向け、ジュニアトレーナー制度の充実を図るとともに、外部団体の公認資格の受験の推進を図る。	イ ジュニアトレーナーは、本校独自の校内資格で、公的機関が認定するトレーナー資格を有する専門家やスポーツ現場で活躍する卒業生を講師とし、トレーニング理論などの講習を行ったうえで資格試験を実施する。	イ 資格試験（ジュニアトレーナー）の正解率 70%以上を基準とし、前年度水準以上の合格者数。[78 名]	
	ウ ジュニアトレーナー合格者のさらなるステップアップとして、スチューデントトレーナー等の正式	ウ トレーナー・鍼灸師など様々な現場で活躍している本校卒業生を招聘し、ジュニアトレーナー合格者対象の実技講習を前後期それぞれ3回以上実施することで知識を深め、	ウ 正式資格（スチューデントトレーナー）の受験者数において 30 名以上を維持。 [38 名]	

	資格の受験推進を図る。 (3) グローバル社会に対応できる人材の育成 ア キャンプライアカレッジとの交流を通して、国際社会に生きる市民としての意識の涵養に努める。	正式資格の受験推進を図る。 (3) ア 令和7年度以降の交流も継続できるように相手校と連携を図りながら、校外の国際交流行事についての周知を確実に行う。また、他分掌と調整を行い、外部の留学に参加できる条件等を整え、生徒が国際交流に積極的に参加できるよう、周知方法や実施内容について校内設備の改善を行う。	(3) ア 国際交流事業に参加した生徒に対するアンケート調査を実施し、満足度 80%以上を維持。 [100%]	
2 「つちを学び、つちを育て」教育のさらなる推進	(1) 人権を尊重する教育の推進 ア 命の大切さを理解させるとともにお互いを認め合う心を育て、人権意識を高める。また、これらの指導を通して生徒理解への環境づくりに努める。 (2) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援 ア 自立支援コースの生徒一人ひとりの希望進路の実現を図る。	(1) ア 外部講師を招いた講演会や人権教育部での講話を実施する。具体的な取組として、人権講演会及び各学年に適した人権学習会を実施し、必要に応じて人権講話を行う。 (2) ア 個別の支援計画・指導計画を作成し、生徒に応じたキャリア教育の充実に向けて有効活用する。また、生徒の希望進路の実現に向けた企業の新規開拓や、地域ならびに関連機関との連携による実習及び進路指導に努める。	(1) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率 90%以上を維持。[97.4%] (2) ア 「自立支援コースについてのアンケート」の項目4「あなた(お子様)にとって本校の自己実現(進路、学習等)に向けての支援は十分できていると思いますか」の「①充分であると思う」の回答を 75%以上。[66.7%]	
3 豊かでたくましい人間性の育み	(1) 他者を思いやる豊かな人間性を備え、自律した生徒を育てるとともに、社会への適応力を育成する。 ア 誰に対してもさわやかに挨拶ができる生徒を育て、生徒・保護者や教職員が笑顔で挨拶のできる学校をめざすとともに、コミュニケーション能力の向上を図り、生徒自らが明るく気持ちのいい学校生活を送ることができる学校づくりをめざす。 (2) 自主・自律の精神を尊重し、友好な人間関係を構築することができる環境づくりをすすめる。 ア 自主・自律的態度を育成するとともに、自他を尊重する心を育む。 イ 部活動において、生徒が主体的に活動に取り組めるような環境づくりを図るとともに、部活動間の意思疎通を促し、学校全体の活性化を図る。	(1) ア 登校時の挨拶指導を継続し、あらゆる教育活動において、挨拶をはじめとするコミュニケーション能力の向上を図る雰囲気醸成する。 (2) ア 「桜マインド」内で取り組む団活動の内容を充実させ、学年の枠を越えて全体で取り組ませるとともに、生徒一人ひとりが積極的に参加できるようサポートする。 イ トップアスリートや有識者など多様な外部人材を招聘し活動をすすめるとともに、教員相互で部活動や生徒の状況を共有する。また、部活動生徒代表者研修を行い、部活動間の交流を図り、切磋琢磨できる環境づくりに努める。	(1) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「4_学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」の肯定的回答率 85%以上を維持。 [85.8%] (2) ア 「桜高祭の取組みに対しての生徒アンケート」を実施し、肯定的な回答 90%以上を維持する。[93.3%] イ 「生徒向け部活動アンケート(2学期末:1・2年生)」を実施し、生徒の満足度 90%以上を維持。 [97.8%]	

府立桜宮高等学校

4 健やかな心身の育み	(1) 自らの健康や体力に関心を持ち主体的に健康・安全・美化を管理し改善していく資質や能力を育てる。 ア 日常の教育相談活動の充実を図り、生徒理解を深め、課題への有効な支援を行う。	(1) ア 情報の収集と教職員間の共通理解を図り、得た情報を検討し対策を講じる教育相談機関の再構築を行う。	(1) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「20_学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができている」の肯定的回答率 85% 以上を維持。[85. 6%]	
5 教員の資質向上	(1) 指導法の改善と授業力向上を図る。 ア 研究授業、授業見学月間等の実施により、教員間の意見交換を活発に行うことで、授業力の向上をめざす。	(1) ア 授業研究を伴う校内研修の充実と公開授業を実施する。また、互いの授業を見学、意見交換できるように、今後も授業力向上の取り組みを継続していく。	(1) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「5_授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率 85% 以上を維持。[86. 3%]	
6 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	(1) 地域に開かれた学校づくり ア 地域に開かれた学校づくりをめざす。 (2) 働き方改革 ア 教職員の時間外勤務の縮減に向けた取り組みを促進し、勤務時間等の管理、健康管理を徹底することにより、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。	(1) ア・地域住民や小中学生及び高齢者を対象とした「SAKURA フェスティバル」を継続実施し、内容についても、さらなる充実をめざす。 ・都島区社会福祉協議会と連携し、生徒のボランティア参加を促す。 (2) ア 時間外勤務時間月 80 時間を超える教職員に対して、自覚症状と勤務の状況を確認させる。また、必要に応じて、産業医との面談を促す。	(1) ア・「SAKURA フェスティバル」への参加者数 600 人以上を維持 [900 名] ・ボランティア参加生徒数 120 名以上を維持する。[のべ 150 名] (2) ア 時間在校時間 80 時間以上対象者数を前年度水準以下にする。[25 名]	
7 安全で安心な学びの場づくり	(1) 生徒の生命・身体を守る取り組み ア 自転車通学のマナー向上と交通事故防止を目標に、交通安全に対する意識を高める。 (2) 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底 ア 清潔で安全な環境づくりに取組むために、委員会活動を通じて、校内美化に努める。	(1) ア 交通安全教育や毎日の通学路指導等を通して規範意識を啓発し、交通事故撲滅をめざす。また、事故対応の方法と大切さを浸透させる。 (2) ア 清掃用具の管理に努め、ゴミの分別を啓発する。また、清掃強化月間を年 2 回実施し、日常の美化活動を促進する。	(1) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「22_交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」の肯定的回答率 80% 以上を維持。[82. 9%] (2) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「24_校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できている」の肯定的回答率前年度水準以上。[74. 6%]	